Japanese Association of Educational Psychology

504 中間児の研究，性格の特徴：村山貞雄・西嶋淑子・○若林昌（愛育研究所）

中間児の研究の一部として，その性格行動の特徴を母親の自由記述からまとめてみた。被験者は，愛育研究所の教養相談に昭和29年1月から35年4月までに来所した者のうち知能指数が70から89までの者で，現在6歳から11歳までの者とした。調査人数708名のうち回答を得た者121名であった。なおこれと対照するための条件群として同所に来所した者のうちから知能指数97から103までの平均知能児群を用い，以前調査した知能指数150以上の天才児群の傾向も参考にした。さらに，これと同時に，家で性格・行動について困っている点を調査し，これも条件群と比較検討し中間児の実態にふれようと試みた。

505 精神薄弱児の知能発達：宮本茂雄（科学警察研究所）

精神薄弱児の知能の発達的変化を鈴木ビネー法の結果にもとづいて，そのIQの変動，問題項目の通過率から検討してきたが，今回は項目分析の一つである被験者の応答の質的な面からとらえてみた。

精神薄弱児は発生原因によって内因性・外因性の二分類にし，それらの差を比較することによって，精神薄弱児の類型化への問題にふれる。

506 知的優秀児の特性に関する研究—読書—：酒井清（都立教育研究所）**・平塚トシ子**（桃園第三小学校）**・○井上弘光**（武蔵野第五小学校）

昭和33年度より，東京都臨床心理研究会として，「知的優秀児の特性に関する研究」を継続している。その一部分として，読書について，特に読書環境及び能力を明らかにしようとした。対象は，都内小中学校の児童生徒で，会員所属の学校に限られてはいるが，普通児との比較対照を試みた。テストは，市販あるいは，独自の案で行った。

507 知的優秀児の特性に関する基礎研究—社会性について—○戸崎巖（板橋区志村第五小学校）**・川崎省三**（港区白金小学校）**・外村近**（港区三光小学校）

知的優秀児の特性に関する基礎研究の一環として，その社会性の特徴を調査研究したものである。特に，学級集団内における交友関係・適応状態等を重点にした。

調査対象は，各学級にそれぞれ2名の優秀児が含まれている5年生2学級をえらんだ。昭和34年4月より35年3月に至る1か年間に4回に亘って実施したSociometric testを中心に考察をすすめた。

508 知的優秀児の特性に関する基礎研究（第10報告）**：○森重敏**（東京家政大学）**・外村近**（港区三光小学校）

WISC知能診断検査で見出されたIQ130以上の知的優秀児の特性を質的に把握するため，今回は，彼等の文章表現における記述的特徴を分析するとともに，作文題の選択を検討し，普通児（集団知能検査 S.S 45～54）の場合と比較する。対象は，東京都港区立三光小学校全児童。検査時期は，昭和36年4月～9月。

課題の観察記録，紀行文，説明文，見学記録文についてみると，優秀児は，たとえば，観察の正確さ，文章段落の区分け，表現の綿密さに見られるように，思考が論理的で概括力にすぐれ，理解力に富み，語いも豊富。また，作文題の選択では，抽象的な題を選ぶ傾向がより大。こうした抽象的，論理的思考の優秀性をさらにTATなどによって検討したい。

NII-Electronic Library Service